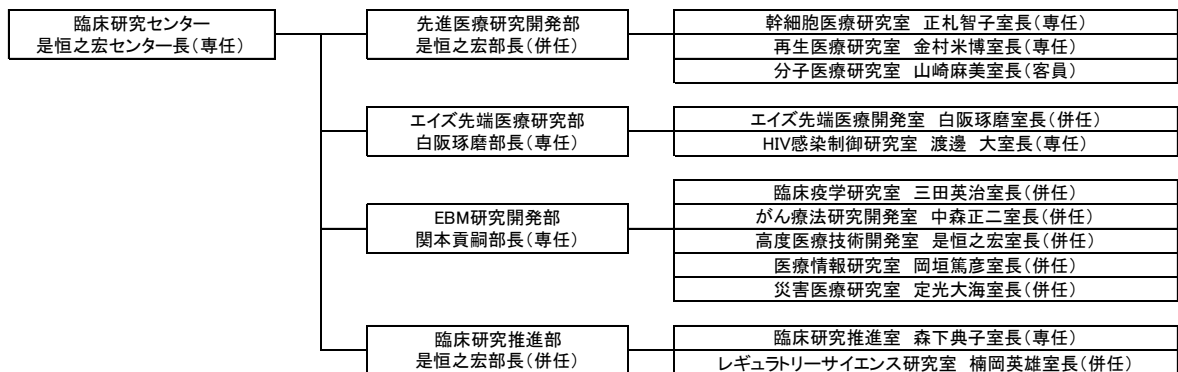


臨床研究センター

センター長 是恒之宏

当臨床研究センターもセンターとなって7年目を迎えた。国立病院機構では平成17年度より新たな研究業績評価が開始されたが、当院は平成18年度2位以外は常に1位を獲得している。この業績評価は、治験、臨床研究プロトコール作成、特許の取得、競争的研究費の獲得、論文著書、国内外の学会発表などの総合力で分析される。日常臨床が多忙を極める中で、治験を含めた臨床研究への積極的な大阪医療センターの取り組みが評価されたものと考えられる。平成20年度より、当院および九州医療センターはその業績を認められ、臨床研究部から臨床研究センターへランクアップとなった。それにともない、組織は1部5室から2部9室と改変し、それまで治験管理センターとして病院内の組織であった治験管理部門を新たに臨床研究も含めた支援室、臨床研究推進室として研究センターの元におくこととなった。平成23年度からは、新たに高度医療技術開発室、レギュラトリーサイエンス研究室を開設し、3部11室となった。これまでと同様、文部科研に応募を希望する医師については、併任発令を行い、これに対応した。また、院内の多くの医師が臨床研究に携わっていること、本部からの研究助成金を研究業績に応じて一部分配することにより研究推進を図る目的で、平成18年度より医長以上の併任、英文論文筆頭著者併任をおこなうこととしている。平成25年度DMAT西日本拠点に指定されたのに伴い、平成26年度から災害医療研究室を加え4部12室となった。平成26年度の構成は以下のとおりである。



※専任室員
 山本篤世室員(幹細胞医療研究室)
 隅田美穂室員(再生医療研究室)
 兼松大介室員(再生医療研究室)

先進医療研究開発部

幹細胞医療研究室

幹細胞医療研究室では、ヒト iPS 細胞（人工多能性幹細胞）を用いて、再生医療の実現化に向けた技術開発研究を実施している。神経疾患の再生医療実現を目指し、iPS 細胞から臨床グレードの神経幹細胞（ニューロンやグリア細胞を供給する能力を持った幹細胞）へと誘導する方法の開発を進めている。また、神経疾患患者の検体から iPS 細胞を樹立し、神経幹細胞の誘導及び神経系細胞への分化を行い、疾患発症機序の解明にも取り組んでいる。

再生医療研究室

再生医療研究室では、各種幹細胞および免疫細胞等のヒト細胞を応用した「細胞治療」を新しい先進的な医療として確立させることを目標に、治療に使用する各種ヒト細胞の培養・加工プロセスの開発、治療用ヒト細胞の品質管理並びに安全性評価に関する技術開発などの研究を行なっている。また、ヒト幹細胞を応用した薬剤毒性評価系の開発と新規治療薬候補化合物の探索を目指した基礎的研究を実施している。さらに悪性脳腫瘍の分子診断体制を構築するための多施設共同研究体制の構築を実施した。

分子医療研究室

分子医療研究室の主な研究課題は、難治性脳形成障害症（Fetal Brain Malformation; FBM）の胎児診断における診断基準の作成と患者由来検体の収集とその遺伝子解析及び臨床像解析の多施設共同研究の体制強化である。現在までに FBM 約 350 例が登録されている。従来の遺伝子解析に加え標的遺伝子検索システム（target sequencing system）と次世代シーケンサーを用いた遺伝子解析（whole exome sequencing ; WES）を施行し、新規遺伝子変異を同定してきた。①脳室拡大が主な所見の水頭症群②全前脳胞症の群③小頭症群④細胞移動障害を呈する群④骨系統疾患の群⑤後頭蓋窩フリーエコー病変⑥大頭症群⑦二分脊椎症群⑧胎内頭蓋内出血あるいは水無脳症・裂脳症・孔脳症群。⑨脳梁欠損群において解析遺伝子のパネル化作成にむけて準備をしている。

エイズ先端医療研究部

エイズ先端医療開発室

HIV 感染制御研究室

海外同様、わが国、特に大阪でも HIV 感染症患者数は増え続けており、毎年、新規 HIV 感染者、エイズ患者数は増加の傾向にある。治療の進歩によって HIV 感染症の予後は大きく改善されたが、エイズ医療では多くの課題が未だ残されている。約 20 年以上前に血液製剤で感染した患者の多くは C 型肝炎との重複感染であり治療が困難な例が多い。その後、増えている性感染症としての HIV 感染症患者では 20 歳代、30 歳代が多く、社会的、経済的に不安定な者も少なくなく、セクシャリティーなどマイノリティーでの課題も抱えている。当研究室では、この様な多くの課題の中で、HIV 感染症治療、エイズ医療の分野を中心とした研究を進め、主に厚生労働科学研究費補助金エイズ対策

事業、財団法人友愛福祉財団の調査研究事業、独立行政法人国立病院機構の共同研究等に取り組んできた。エイズ先端医療研究部はエイズ先端医療開発室（白阪が室長を兼務）と HIV 感染制御研究室（渡邊大室長）から成り、前者は医療についての研究、後者は基礎的研究を主に行っている。服薬アドヒアランスの向上に関する研究班、HIV 感染症及びその合併症の課題を克服する研究班では分担研究者と共に HIV 感染症のチーム医療の在り方、エイズ看護の在り方、長期療養の問題等と取り組んで来た。今後もエイズの治療と医療に付き研究を進める。

EBM 研究開発部

臨床疫学研究室

臨床疫学研究室では、臨床疫学・アウトカムリサーチの実施基盤を確立し、データの集積・解析を行いつつエビデンスを形成し、コストベネフィットを解析する形態の臨床研究を行っている。特に消化器疾患診療に関する薬剤・機器臨床試験の他、当院の政策医療である肝臓病の診療に役立つ臨床研究を推進している。平成 26 年度も厚生労働科研、国立病院機構共同研究などの公的助成や民間助成を得て、1) C 型肝炎治療の効果予測因子、2) B 型肝炎に対する核酸アナログの耐性変異の解析、3) アデホビル・テノビルの腎機能障害の検討を行い、成果をあげている。

がん療法研究開発室

現在、がん治療においては、オーダーメイド医療という語に代表されるように、各個人のがんの種類や病態の特徴に応じた医療が積極的に進められている。病気や病態の違いは分子異常の違いによって生じており、それを利用した遺伝子診断や分子標的治療もさかんに行われるようになってきた。本研究室では、がん患者から得られた血液や組織を利用してがんにおける分子異常を探り、それに基づいた新たながんの診断や治療戦略の開発をめざした **translational research** とその臨床応用めざしている。具体的には、国立がん研究センターをはじめ企業の研究期間を含めた専門組織との共同研究により、1) 臨床材料を用いた網羅的遺伝子解析や網羅的ペプチド蛋白解析、糖鎖解析を利用した発がん、増殖、転移に関わる責任分子の抽出、同定と治療応用可能標的分子の確認。2) 分子異常に基づいた新たな腫瘍マーカーの開発。3) 抗がん剤や放射線治療の感受性や耐性に関与する分子の分離とその臨床応用。4) 実臨床における全国規模の大規模多施設共同臨床試験に積極的に参加するとともに自主的臨床試験研究の企画を行っている。

高度医療技術開発室

近年における医療を取り巻く情報処理や画像処理の技術革新により、診断、治療における医用画像診断装置の利用範囲は拡大しており、著しいイノベーションを引き起こしている。医用画像診断装置の技術開発により低侵襲化、従来視覚化困難であった部位や現象の画像化が可能になりつつあり、そこから新たな治療が生まれる可能性がある。これらの技術開発には医工連携すなわち病院、大学、企業との連携体制の構築が必要であるが、米国における産学連携の仕組みや組織と比較すると本邦ではまだまだ発展の余地が多いと言える。病院における医療現場のニーズを企

業が保有している技術開発力や大学の基礎医学研究能力に結び付けながら、常に新しい高度医療技術の開発に取り組んでゆくことが、病院に付属する本研究室の最も重要な役割である。平成24年度より循環器系研究室員を配置し、医用画像診断装置の技術開発を大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻機能診断科学講座とともに推進している。

医療情報研究室

医療情報研究室では、医療へのIT応用に関するソフト、ハードの両側面の研究を行っている。整形外科領域におけるシミュレーションを用いた研究、病院において実稼働している病院情報統合システムを用いた研究、病院情報システム本体の機能拡張に関する独自の研究を実施する一方、治験・臨床研究や医療安全に関するシステムの検討、シミュレーションや統計などの情報科学の医療応用に関する研究を行っている。また、ネットワーク技術や画像処理技術の応用・改良など、情報処理の基盤技術に関連した研究も行っている。最近では南海トラフ巨大地震、首都直下型地震の医療機関被災状況シミュレーションやDMAT配置計画等、国の災害対策の元となるデータの供給も行なっている。

災害医療研究室

平成25年10月より厚生労働省医政局災害医療対策室DMAT事務局が開設された。それに合わせて、臨床研究センターに災害医療研究室を新設し、災害医療に関する調査研究を行っている。平成25年度は厚生労働科学研究費補助金(H25-特別-指定-023)による「南海トラフ巨大地震の被害想定に対するDMATによる急性期医療対応に関する研究」を実施した。さらに平成26年度からは、厚生労働科学研究費補助金地域医療基盤開発推進研究事業(H26-医療-指定-023)による「首都直下地震に対応したDMATの戦略的医療活動に必要な医療支援の定量的評価に関する研究」を2年計画で実施中である。また、厚生労働科学研究費補助金地域医療開発推進研究事業の「東日本大震災からみた今後の災害医療体制のあり方に関する研究」、さらに健康安全・危機管理対策総合研究事業の「災害時における医療チームと関係機関との連携に関する研究」の分担研究として災害時に用いる標準的災害診療記録票の作成に関する研究を実施し、平成27年度も継続予定である。平成26年度NHO共同研究「障害者病棟を持つ病院の災害対策マニュアル整備に関する研究」にも参画している。今後、DMATだけでなく国立病院機構の災害医療における役割や消防あるいは警察機関との連携に関する継続的な研究も計画している。

臨床研究推進部

臨床研究推進室

臨床研究推進室は、治験や臨床研究の円滑な実施とその質を保証することを目的として平成11年4月に「治験管理センター」として開設され、本年度で16年目を迎えている。平成20年度からは臨床研究部が臨床研究センターに昇格したのを機に、「治験管理センター」から「臨床研究推進室」へと組織および名称変更を行った。

臨床研究推進室には「治験管理部門」「臨床試験支援部門」があるが、治験管理部門が、治験以外の臨床研究支援も含め、活動の中心となっている。主な活動として、治験の全体的なコーディネーションを担うとともに、治験の契約前から終了まで迅速かつ質の高い治験実施を支援している他、受託研究審査委員会（IRB）事務局機能も併せ持っている。

平成 26 年度には、厚生労働省より「質の高い倫理審査が行える委員会（認定倫理審査委員会）」として認定を受けることができた（平成 27 年 3 月 31 日付）。

レギュラトリーサイエンス研究室

レギュラトリーサイエンスは、平成 23 年 8 月の科学技術基本計画では「科学技術の成果を人と社会に役立てることを目的に、根拠に基づき的確な予測、評価、判断を行い、科学技術の成果を人と社会とも調査の上で最も望ましい姿に調整するための科学」と定義されている。平成 26 年 11 月には、薬事法が「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」に改正され、「再生医療等の安全性の確保等に関する法律」が制定された。いずれも平成 27 年 11 月から施行されている。このようなレギュラトリーサイエンスの対象領域の拡張を踏まえ、当研究室では、医師、医療従事者のみならず、他分野の研究者、知識人との連携・協力により、特に、再生医療・細胞治療・遺伝子治療といった先端医学、ゲノム科学をとりいれた臨床研究、あるいは新たな感染症対策などの分野において、先進医療について、最新の科学的技術・知識に基づく予測・評価を行うとともに、社会との調和を図ることをテーマとしている。

【2014 年度研究発表業績】

A-0

Matsumoto M, Hori M, Tanahashi N, Momomura S, Uchiyama S, Goto S, Izumi T, Koretsune Y, Kajikawa M, Kato M, Ueda H, Iekushi K, Yamanaka S, Tajiri M, and on behalf of the J-ROCKET AF Study Investigators. Rivaroxaban versus warfarin in Japanese patients with non-valvular atrial fibrillation in relation to hypertension: a subgroup analysis of the J-ROCKET AF trial. *Hypertension Res* 37:457-462, 2014 (May 2014)

Inoue H, Atarashi H, Kamakura S, Koretsune Y, Kumagai K, Mitamura H, Okumura K, Sugi K, Yamashita T, Yasaka M. Guidelines for pharmacotherapy of atrial fibrillation. *Circ J* 78(8):1997-021 (Aug 2014)

Shinouchi K, Abe H, Hirooka K, Yasumura Y, Koretsune Y. A sarcoid nodule mimicking a thrombus and obstructing intravenous cardiac resynchronization device implantation. *Eur Heart J Cardiovasc Imaging* 16(3):342, 2015 (Mar 16, 2015)

Uchiyama S, Shinohara Y, Katayama Y, Yamaguchi T, Handa S, Matsuoka K, Ohashi Y, Tanahashi N, Yamamoto H, Genka C, Kitagawa Y, Kusuoka H, Nishimaru K, Tsushima M, Koretsune Y, Sawada T, Hamada C for the CSPS2 group. Benefit of Cilostazol in patients with high risk of bleeding: Subanalysis of Cilostazol Stroke Prevention Study 2. *Cerebrovasc Dis* 2014;37:296-303 (May 8, 2014)

Uchiyama S, Hori M, Matsumoto M, Tanahashi M, Momomura S, Goto S, Izumi T, Koretsune Y, Kajikawa M, Kato M, Ueda H, Iekushi K, Yamanaka S, Tajiri M, and on behalf of the J-ROCKET AF Study Investigators. Net clinical benefit of rivaroxaban versus warfarin in Japanese patients with nonvalvular atrial fibrillation: A subgroup analysis of J-ROCKET AF. *J Stroke Cerebrovasc Dis* 23(5);1142-1147, 2014 (MAY-JUNE 2014)

Toyoda K, Yasaka M, Uchiyama S, Iwade K, Koretsune Y, Nagata K, Sakamoto T, Nagao T, Yamamoto M, Gotoh J, Takahashi JC, Minematsu K and The Bleeding with Antithrombotic Therapy Study Group. *Hypertension Res* 37;463-466, 2014 (May 2014)

Hori M, Matsumoto M, Tanahashi M, Momomura S, Uchiyama S, Goto S, Izumi T, Koretsune Y, Kajikawa M, Kato M, Ueda H, Iekushi K, Yamanaka S, Tajiri M, and on behalf of the J-ROCKET AF Study Investigators. Rivaroxaban versus warfarin in Japanese patients with nonvalvular atrial fibrillation in relation to age. *Circ J* 2014 78(6); 1349-56, 2014 (Apr7, 2014)

A-3

是恒之宏、井口東郎：ICH-GCPに準拠した大規模臨床研究を推進するために「国立医療学会誌医療」Vol.68 No.5 P.236-238、国立医療学会、2014年5月20日

西田博毅、井上裕之、安村かおり、古川哲生、篠内和也、坂口大起、三浦弘之、宮崎宏一、小出雅雄、安部晴彦、廣岡慶治、楠岡英雄、安村良男、是恒之宏、池田善彦：巨細胞性心筋炎にステロイド単独療法が効を奏した一症例「Osaka Heart Club」Vol.38 No.5 P.6-11、公益社団法人大阪ハートクラブ、2014年10月15日

堀正二、是恒之宏、矢坂正弘、村田達教、深谷拓、柴原毎久：心房細動患者における心血管イベントの疾病負担：ダビガトランおよびワルファリンの医療経済的効果「Pharma Media」Vol.33 No.2、P.87-95、株式会社メディカルレビュー社、2015年2月10日

A-4

是恒之宏：心房細動の診断、2.リスク診断、「脳梗塞と心房細動」、第2巻第1号、P.14-18、フジメディカル出版、2015年2月1日

是恒之宏：特集最新の心房細動薬物治療、7.抗Xa阻害薬（リバーロキサバン、アピキサバン、エドキサバン）、「医薬ジャーナル」Vol.51、No.3、P.91-98、医薬ジャーナル社、2015年3月1日

是恒之宏：治療薬解説、エドキサバン「カレントセラピー」、Vol.33 No.3、P.75-80、株式会社ライフメディコム、2015年3月1日

是恒之宏：安全性を重視した低用量の使い方、NOACは何を選択すべき？「Thrombosis Scope-最終号-これからの抗凝固療法にむけて」、最終号、P.5-6、株式会社インターサイエンス社、2015年1月

是恒之宏：新規経口抗凝固薬（NOAC）の特徴と使い分け「Medical Practice」、Vol.31 No.10、P.1639-1643、株式会社文光堂、2014年10月1日

清水渉、是恒之宏、林明聡、高橋尚彦、井口保之：エビデンスにもとづいた抗凝固薬の使い分け「Cardio-Coagulation」Vol.1 No.4 P.6-15、メディカルレビュー社、2014年12月26日

是恒之宏：Editor's Eye「Cltman Press」、No.16、ターギス株式会社、2014年11月

是恒之宏：新ガイドラインにおける抗凝固療法「Cardio-Coagulation」Vol.1 No.2、P.27-31、メディカルレビュー社、2014年6月25日

是恒之宏、Gregory Y.H.Lip、井上耕一、草野研吾：日欧ガイドラインから見る抗凝固療法「Medical Tribune」Vol.48 No.8 P.26-28、株式会社メディカルトリビューン、2015年2月19日

是恒之宏：ワルファリン・トロンビン阻害薬・Xa阻害薬-各薬剤の特性とそのエビデンス-「心電図」Vol.34 Supplement4 P.S-4-11~S-4-17、日本心電学会誌、2014年8月19日

是恒之宏：抗凝固薬、「日本臨床」第72巻第7号 P.1243-1247、日本臨床社、2014年7月22日

是恒之宏：エビデンスに基づく抗凝固療法-抗凝固療法と血栓予防 9th 版：ACCP Evidence-Based Clinical Practice Guidelines「血栓と循環」Vol.22 No.1 P.152-157、メディカルレビュー社、2014年5月10日

是恒之宏：実臨床における抗凝固療法の実施と課題-レジストリ研究 GARFIELD からの考察-「日本血栓止血学会誌」Vol.25 No.2 P.227、日本血栓止血学会、2014年6月?日

小川聡、赤尾昌治、新博次、岡村智教、是恒之宏：心房細動の登録研究からなにが明らかにされたか「不整脈 News&Views」No.37 P.3-9、ライフサイエンス出版株式会社、2014年5月9日

是恒之宏：抗凝固薬「よくわかる血栓・止血異常の診療」P216-227、中山書店、2014年11月20日

是恒之宏：心房細動における新規経口抗凝固薬の使い方「日本薬剤師雑誌」第66巻 第10号 P.13-18、日本薬剤師会、2014年10月1日

是恒之宏：NOAC 開始後の除細動「週刊日本医事新報」No.4719 P.63、日本医事新報社、2014年10月4日

是恒之宏：ENGAGE AF-TIMI48「CARDIAC PRACTICE」Vol.25 No.4 メディカルレビュー社、2014年10月10日

是恒之宏：ワルファリン・トロンビン阻害薬・Xa 阻害薬-各薬剤の特性とそのエビデンス-「JPN.J.ELECTROCARDIOLOGY」Vol.34 P.S4-11~17、2014年8月19日

奥村謙、是恒之宏、山下武志：日本発の NOAC エドキサバンの実力を識る「Medical Tribune」P.24-25、株式会社メディカルトリビューン、2014年11月20日

是恒之宏、Stuart J.Connolly：抗凝固療法におけるアピキサバンの位置付け「Medical Tribune」P.30-31、株式会社メディカルトリビューン、2014年6月19日

B-1

是恒之宏：AF GLOBAL ADVISORY BOARD MEETING Edoxaban Versus WarFarin in East-Asian(including Japanese)Patients with Atrial Fibrillation、東京都 2014.5.17

是恒之宏：第 36 回日本血栓止血学会学術集会 ランチョンセミナー5 実臨床における抗凝固療法の実施と課題-レジストリ研究 GARFIELD からの考察、大阪国際交流センター、大阪府 2014.5.30

是恒之宏：GARFIELD AF Steering Committee and National Coordinator Council meetings Regional differences-Co-morbidities and outcomes,London 2014.10.17

B-2

是恒之宏：ACC 64th Annual Scientific Session&Expo Effects of Regional Differences in Asia on Efficacy and Safety of Edoxaban Compared to Warfarin:Insights from the ENGAGE AF-TIMI48Trial、SanDiego California 2015.3.14-16

B-3

是恒之宏：The29th Annual Meeting of The Japanese Heart Rhythm Society Essence of Anti-thrombotic Therapy from the"Guideline for Pharmacotherapy of Atrial Fibrillation(JCS2013 revised version) 2014.7.25

是恒之宏：第 62 回日本心臓病学会学術集会NOAC の unmet medical needs と今後の展望、仙台国際センター、宮城県 2014.9.26

是恒之宏：第 62 回日本心臓病学会学術集会 心房細動患者における抗凝固療法関連出血イベント予測因子に関する検討：J-ROCKET AF 試験から得られた新たな知見、仙台国際センター、宮城県 2014.9.27

是恒之宏：第 62 回日本職業・災害医学会学術大会 ランチョンセミナー4 心房細動における新規経口抗凝固薬の現状と課題、神戸国際会議場、兵庫県 2014.11.16

是恒之宏：日本心臓病学会 教育セミナー 第 33 回アドバンス・コースランチョンセミナー 超高齢社会における抗凝固療法の適正使用を考える、大阪国際会議場、大阪府 2015.2.22

B-4

井上裕之、安部晴彦、廣岡慶治、西田博毅、安村かおり、古川哲生、坂口大起、篠内和也、三浦弘之、宮崎宏一、小出雅雄、安村良男、是恒之宏、楠岡英雄：第 62 回日本心臓病学会学術集会。当院で経験した急性肺動脈血栓を発症した HIV 感染症患者の臨床的特徴に関する検討、仙台国際センター、宮城県 2014.9.26

安村かおり、廣岡慶治、西田博毅、井上裕之、古川哲生、坂口大起、篠内和也、三浦弘之、宮崎宏一、小出雅雄、安部晴彦、安村良男、是恒之宏、楠岡英雄：第 62 回日本心臓病学会学術集会 MRI 対応スクリーニン・リードを心房中隔に留置することは容易ではない、仙台国際センター、宮城県 2014.9.26

宮崎宏一、井上裕之、西田博毅、安村かおり、古川哲生、坂口大起、篠内和也、三浦弘之、小出雅雄、安部晴彦、廣岡慶治、是恒之宏、楠岡英雄、安村良男：第 62 回日本心臓病学会学術集会。胸腔内に腎臓が・・・？「普段あまり気に留めない心エコー像」、仙台国際センター、宮城県 2014.9.28

坂口大起、安村かおり、西田博毅、井上裕之、古川哲生、篠内和也、三浦弘之、宮崎宏一、小出雅雄、安部晴彦、廣岡慶治、是恒之宏、楠岡英雄、安村良男：第 62 回日本心臓病学会学術集会 トルパプタンによる decongestion の経過と神経体液性因子との関係、仙台国際センター、宮城県 2014.9.28

篠内和也、坂口大起、井上裕之、西田博毅、安村かおり、古川哲生、三浦弘之、宮崎宏一、濱野剛、小出雅雄、安部晴彦、廣岡慶治、安村良男、是恒之宏、楠岡英雄：第 62 回日本心臓病学会学術集会 トルパプタンによる decongestion 様式の予測因子の検討、仙台国際センター、宮城県 2014.9.28

小出雅雄、井上裕之、西田博毅、安村かおり、古川哲生、篠内和也、坂口大起、三浦弘之、宮崎宏一、安部晴彦、廣岡慶治、是恒之宏、楠岡英雄、安村良男：第 62 回日本心臓病学会学術集会 Carperitide の減量・中止にて血行動態に悪化をきたす症例の検討、仙台国際センター、宮城県 2014.9.28

B-7

是恒之宏 Xarelto Advisory Board Meeting 現状の抗凝固療法の問題点と限界について、バイエル薬品東京支社、東京都 2014.4.26

是恒之宏：プラザキサ発売 3 周年記念講演会。ガイドラインにおけるプラザキサの位置づけとリアルワールドでの処方状況、ザ・プリンスタワーホテル東京、東京都 2014.4.

是恒之宏：エリキュース～抗凝固療法適正使用セミナー～ 新・ガイドラインからみる抗凝固療法～超高齢化社会の日本におけるアピキサバンの位置づけを考える～、都ホテルニューアルカイク、兵庫県、2014.5.16

是恒之宏：Meet The Expert In Tokyo エキスパートと語る NOAC の展望 2014

循環器医からみた NOAC の展望 20114、日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社本社、東京都 2014.5.24

是恒之宏：堺市地域連携循環器研究会。新ガイドラインからみる抗凝固療法～超高齢化社会の日本におけるアピキサバンの位置づけを考える～、ホテルアゴーラリージェンシー堺、大阪府 2014.5.29

是恒之宏：和歌山地区アドバイザー会議 Core Member Meeting 新規経口抗凝固薬の最新の話～エビデンスから NOAC の使い分けを考える～、フォルテワジマ、和歌山県 2014.6.7

是恒之宏：プラザキサ イーハートブ講演会。抗凝固療法における患者管理と薬剤選択、ホテルメトロポリタン盛岡、岩手県 是恒之宏 2014.6.13

是恒之宏：抗凝固療法学術講演会 新規経口抗凝固薬の最新の話～最新のガイドラインについて～、横浜ベイシェラトンホテル&タワーズ、神奈川県 2014.6.16

是恒之宏：第 32 回法円坂地域医療フォーラム 心原性脳塞栓は予防が第一・心房細動治療ガイドライン 2013 改定のポイント、シティプラザ大阪、大阪府 2014.6.21

是恒之宏：西宮市医師会学術講演会。心房細動治療（薬物）ガイドライン 2013 ポイントと新規経口抗凝固薬の使い分けについて、ノボテル甲子園、兵庫県 2014.6.26

是恒之宏：エリキュースエキスパートセミナー1 心房細動薬物治療ガイドライン（2013 年改訂版）を読み解く、ザ・プリンスパークタワー東京、東京都 2014.7.5

是恒之宏：Xarelto Summit。ワルファリン療法における課題、野村コンファレンスプラザ日本橋、東京都 是恒之宏 2014.7.5

是恒之宏：心房細動治療 up date 心房細動患者における抗血栓療法～今後どのように NOAC を導入していくか？～、帝国ホテル大阪、大阪府 2014.7.12

是恒之宏：エリキュースエキスパートセミナー3 心房細動薬物治療ガイドライン（2013 年改訂版）を読み解く、グランドプリンスホテル新高輪、東京都 2014.7.13

坂口大起、安村かおり、西田博毅、井上裕之、古川哲生、篠内和也、三浦弘之、宮崎宏一、小出雅雄、安部晴彦、廣岡慶治、安村良男、是恒之宏、楠岡英雄：第 36 回中之島心不全カ

ンファレンス。急性左心不全を繰り返しながら腎機能が徐々に悪化していった収縮不全の一例、ホテル阪急インターナショナル、大阪府 2014.9.28

是恒之宏：臨床研究倫理審査委員会・治験審査委員会委員研修 専門医院向け 科学的審査の視点プロトコルの見方、統計学的知識等、独立行政法人国立病院機構大阪医療センター、大阪府 2014.12.21

B-8

是恒之宏：プラザキサ発売 3 周年記念講演会 ガイドラインにおけるプラザキサの位置づけとリアルワールドでの処方状況、ザ・プリンスタワーホテル東京、東京都 2014.4.5

是恒之宏：エリキュース発売 1 周年記念講演会 新・ガイドラインからみる抗凝固療法、ホテル大阪ベイタワー、大阪府 2014.4.12

是恒之宏：第二回東京都健康長寿医療センター神経内科・脳卒中科セミナー「新しい脳塞栓 2 次予防」「新・ガイドラインからみる抗凝固療法」～超高齢化社会の日本におけるアピキサバンの位置づけを考える～、東京都健康長寿医療センター、東京都 2014.4.14

是恒之宏：桜橋心房細動フォーラム 新規経口抗凝固薬の最新の話～最新ガイドラインについて～、ガーデンシティクラブ大阪、大阪府 2014.4.17

是恒之宏：医療安全定期講演会のご案内 抗血栓療法（抗凝固療法・抗血小板療法）患者の手術期の対応について、独立行政法人国立病院機構大阪医療センター、大阪府 2014.4.23

是恒之宏：2014Prazaxa 3rd Anniversary 城東 Special Meeting 新規経口抗凝固薬の最新の話～最新ガイドラインについて～」東京ドームホテル、東京都 2014.4.25

是恒之宏：医療安全定期講演会のご案内 抗血栓療法（抗凝固療法・抗血小板療法）患者の手術期の対応について、独立行政法人国立病院機構大阪医療センター、大阪府 2014.5.9

是恒之宏：Meet The Specialist～日欧心房細動ガイドラインを読み解く～ 心房細動新ガイドラインと今後の展望－改定ポイントを踏まえて－、セントレジスホテル大阪、大阪府 2014.7.27

是恒之宏：エリキュース座談会日欧ガイドラインからみる抗凝固療法の新展開-使用経験から見えてきたアピキサバンの位置づけ- JCS ガイドライン 2013、セントレジスホテル大阪、大阪府 2014.7.27

是恒之宏：Hiroaki Kawanami 記念 東葛 AF カンファレンス。新・ガイドラインからみる抗凝固療法～超高齢化社会の日本におけるアピキサバンの位置づけを考える～、新東京病院、千葉県 2014.7.29

是恒之宏：Phoenix Symposium inHiroshima-明るい長寿の国へ-新規経口抗凝固薬に最新の話：～エビデンスから NOAC の使い分けを考える～、ANA クラウンプラザホテル広島、広島県 2014.8.21

是恒之宏：第 17 回 CRC 養成研修会 日本病院薬剤師会主催 治験責任医師の役割および CRC への期待、日本薬学会長井記念館長井記念ホール、東京都 2014.8.27

是恒之宏：探索医療薬物研究会 第 2 回合同シンポジウム「創薬と医療～基礎と臨床の架け橋」 心房細動を対象とした新規経口抗凝固薬の治験に係わって、大阪薬科大学、大阪府 2014.9.13

是恒之宏：NOAC Forum in Tokyo～適正使用について考える～ガイドラインにおけるアピキサバンの位置づけと実臨床での使い方、帝国ホテル、東京都 2014.10.24

是恒之宏：SPAF/VTE Expert Meeting 東海 ENGAGE AF-TIME48 試験概要と結果、ヒルトン名古屋、愛知県 2014.11.1

是恒之宏：千里ライフサイエンスセミナー F4「血栓形成の分子メカニズムとその制御」新規抗凝固療法の効果とその問題点、千里ライフサイエンスセンタービル、大阪府 2014.11.6

是恒之宏：東神戸地域心房細動を考える会 心房細動の治療戦略～ワルファリンと新規抗凝固薬をどう使う～、ホテル竹園芦屋 2014.11.6

是恒之宏：Meet The Specialist ガイドラインにおけるアピキサバンの位置づけと実臨床での使い方、ホテル大阪ベイタワー、大阪府 2014.11.8

是恒之宏：健康セミナー「もっと知ってほしい！脳梗塞～知識を深めよう～ なんと脳梗塞になるの？～守ろう自分のからだ～、北浜フォーラム、大阪府 2014.11.9

是恒之宏：抗血小板療法と抗凝固療法-安全性と副作用対策を考える- 心房細動に対する抗血栓療法-NOAC の特徴と使い分け-、帝国ホテル、大阪府 2014.11.22

是恒之宏：新規抗凝固薬 適正使用セミナーin 周南 ガイドラインにおけるアピキサバンの位置づけと実臨床での使い方、ホテルサンルート徳山、山口県 2014.11.28

是恒之宏：第 35 回日本臨床薬理学会学術総会 「抗凝固療法新時代」 心房細動における抗凝固療法の今”を考えるー循環器内科医の立場より-、ひめぎんホール別館、愛知県 2014.12.4

是恒之宏：第 18 回札幌循環器疾患談話会 心房細動に対する抗血栓療法-新規経口抗凝固薬の特徴と使い分け-、市立札幌病院、北海道 2014.12.9

是恒之宏：SPAF/VTE Expert Meeting 大阪、京都、神戸、北陸 ENGAGE AF-TIME48 試験概要と結果、ホテルモントレグラスミア大阪、大阪府 2014.12.13

是恒之宏：エリキュース エリア 座談会 抗凝固療法の現状について、心房細動治療ガイドラインと NOACs 大規模臨床試験の Review、スイスホテル南海大阪、大阪府 2014.12.26

是恒之宏：抗凝固療法 Up to date 臨床試験から見えてきたエドキサバン特徴、ホテル椿山荘東京、東京都 2015.1.21

是恒之宏：第 1 回北勢地区循環器 Up to date。臨床試験から見えてきたエドキサバン特徴、四日市都ホテル、三重県 2015.1.27

是恒之宏：エリキュース インターネット講演会ー専門医シリーズ-専門医からみた抗凝固薬の位置づけ TTR が良ければいいのか～増えゆく高齢心房細動患者を見据えたアピキサバン選択のメリット～、インターネット配信 2015.1.27

是恒之宏：心房細動学術講演会 臨床試験から見えてきたエドキサバンの特徴、ホテルセンチュリー静岡、静岡県 2015.1.30

是恒之宏：十勝抗血栓療法講演会～リクシアナ錠適応拡大記念講演会～ 臨床試験から見えてきたエドキサバンの特徴、ホテル日航ノースランド帯広、北海道 2015.2.6

是恒之宏：治験・臨床研究研修会 臨床研究にかかる利益相反マネジメントの意義、大阪府成人病センター、大阪府 2015.2.9

是恒之宏：エドキサバン AF/VTE 効能追加講演会 臨床試験から見えてきたエドキサバンの特徴、札幌パークホテル、北海道 2015.2.19

是恒之宏：第4回 HCCC 抗血栓療法の Unmet Medical Needs と今後の方向性、都ホテルニューアルカニック、兵庫県 2015.2.19

是恒之宏：抗凝固療法 Up to date 臨床試験から見えてきたエドキサバンの特徴、ホテルグリーンパーク津、三重県 2015.2.27

是恒之宏：抗凝固療法 Up to date②～抗凝固療法～ 臨床試験から見えてきたエドキサバンの特徴、福山労働会館みやび、広島県 2015.3.2

是恒之宏：明石ベイエリア循環器カンファレンス 臨床試験から見えてきたエドキサバンの特徴、ホテルキャッスルプラザ、兵庫県 2015.3.19

是恒之宏：平成26年度第2回臨床研究・治験推進セミナー 研究者に必要なGCPの知識、長崎大学病院、長崎県 2015.3.20

是恒之宏：日医生涯教育講座学術講演会 臨床試験から見えてきたエドキサバンの特徴、ホテルメトロポリタン長野、長野県 2015.3.27